

事例報告①

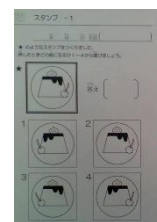
「通常学級におけるコグトレ実践報告」

内藤 みゆき（吹田市立吹田第三小学校）

1. 取り組みの概要（対象の実態等）

本学級のコグトレの対象にした子どもたちのタイプは以下の2つである。共通点は、支援学級に在籍する必要性はそれほど感じられないが、個別の対応が欠かせないということである。

- ① 学力的な課題はないが、自分の感情をコントロールしづらかったり、集中することが難かったりする子ども。
- ② 学力的な課題を抱える子ども。



2. 取り組みの内容

取り組んだコグトレの内容は以下の6種類である。

- ① 「覚える」の「最初とポン」：話を集中して聞かせるため、1年生なので文ではなく、単語を5つ言うことにした。
- ② 「数える」の「記号さがし」
- ③ 「写す」の「点つなぎ」と「曲線つなぎ」
- ④ 「見つける」の「形さがし」
- ⑤ 「想像する」の「スタンプ」
- ⑥ OT（コグトレ棒）：体育の授業の体づくりの運動として取り組んだ。



参考文献 『教室で使えるコグトレ』『やさしいコグトレ認知機能強化トレーニング』
『不器用な子どもたちへの認知作業トレーニング』

3. 取り組みの成果

- ① アセスメントシートにより課題が把握できた。
- ② 子どもたちが「面白い」と、ゲーム感覚で取り組むことができた。
- ③ 課題に合ったコグトレを使い、課題を軽減することができた。

4. 事例報告学習会を終えて

- ① 3学期も継続することによって、子どもたちの達成度を見ていく。
- ② 課題に合ったコグトレを選び、課題の克服に向けて力をつけさせていく。
- ③ 課題が感じられない子どもに対しても、認識する力をつけさせていく。